

令和6年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会（第1回）

日時：令和6年10月29日（火）午後1時30分から

場所：愛知県三の丸庁舎地下1階 B101 会議室

（1）令和5年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会（第2回）における意見と対応について

- ・事務局から説明

（2）令和6年度市町村実施計画（カモシカ）の策定について

- ・事務局から説明

（構 成 員）カモシカは特別天然記念物であるので、文化財保護法で文化庁長官の許可を得ないで捕獲することは禁止されているが、鳥獣保護管理法の第二種特定鳥獣管理計画を策定し、一定の基準を満たすものについて文化財保護法の捕獲に係る現状変更の許可が下りる形となっている。そのため、カモシカの第二種特定鳥獣管理計画は他の鳥獣の計画と異なり、やや特殊な計画である。第二種特定鳥獣管理計画は、県の計画であるので、愛知県としてカモシカについてどのように対応していくのか明確なビジョンがあるのが望ましい。捕獲団地で加害獣を特定して捕獲するという現状の対策は、カモシカの生息数を極端に減らすといったことはないため、大きな問題はないと考えるが、今後、県としてのビジョンを考えていく必要がある。

（事 務 局）今後検討していきたい。

（ 座 長 ）カモシカの生息頭数について、明確な基準として示したものではなく、感覚的なものではあるが、500頭を切ると捕獲を禁止、1,500頭を超えると捕獲を進め、愛知県としては1,000頭程度で維持していけばいいのではという議論がされてきた。

（構 成 員）カモシカはシカほど高密度になるような動物ではない。平均で2頭/km²以下で、愛知県で10頭/km²以上になることはないと思うが、生息密度として、どこまでが許容できるか考えていかなければならないと思う。

（構 成 員）岡崎市で実施されている加害獣の特定のための調査の結果については、資料等を提供いただければと思う。また、他市町村で類似の調査等はないのか。

（事 務 局）岡崎市に確認し、差し支えなければ次回お示しする。他市町村で同様の調査を実施しているところは把握していない。

（構 成 員）被害の特定について、大規模に実施しなくても、問題のある地域に限定して簡便な方法でやってみてはどうか。

（構 成 員）岡崎市の被害状況に驚いたが、是非次回資料を提供いただきたい。今

回のように突出したデータがあると、今後の検討に影響を与えることもあるので、現場では加害獣の区別をしっかりといただきたい。岡崎市の調査方法についてはどのようなものか。

(野生イノシシ対策室) 被害報告の挙がっているエリアにセンサーカメラを設置して、カモシカによる被害か、シカによる被害か確認する方法をとっていると聞いている。

(構 成 員) 稲の被害が大きく増えている。近年、米の価格上昇があるが、それとは別に、稲が集中的に被害を受けているという認識でよいか。

(野生イノシシ対策室) 被害金額は、収穫量の減少量から算出される。稲はある程度成長してからであれば、被害を受けたとしても収穫量にそれほど影響が出ないが、今回のケースは、田植え直後に被害を受けた結果、収穫量に大きく影響し、被害額が大きくなったと聞いている。

(構 成 員) カモシカについて、生息数や密度に変化がない中で農作物被害は右肩上がりにある。農作物被害の増加は営農放棄にもつながるので、加害獣のすべてがカモシカでないかもしれないが、県として、市町村等、関係機関と連携して、鳥獣被害防止対策を進めていただきたい。

(構 成 員) 近年のカモシカの妊娠率について、野生動物の妊娠率としては非常に低いという印象を受ける。妊娠初期(11~12月)には妊娠の有無の判別が困難で、見落としやすい。妊娠率が50%を切っているが、シカ等では、生息密度が環境収容力を超過し、栄養状態が非常に悪いような状況でしか見られない数値である。捕獲作業はいつ行っているか。

(事 務 局) 11~12月頃に着手されている。

(構 成 員) その時期であれば、妊娠率が過小評価されているおそれがある。愛知県では生息頭数や分布が安定しているが、三重県の鈴鹿や滋賀県西部ではシカの植生に対する影響が強く、カモシカが減少している。様々な要因があると思うが、単純に餓死するばかりでなく、繁殖能力が減少している可能性もあると考えられる。いずれにせよ妊娠率の評価は重要なデータであるので精査した方がよい。

(座 長) 妊娠率の検査のサンプル数はどれぐらいか。

(事 務 局) 捕獲された個体のうちメスについて検査している。サンプル数が少なく、年によっても異なる。そのあたりも踏まえて確認していきたい。

(構 成 員) 林業の現場で、シカ、カモシカの被害判別はなかなか難しい。愛知森林管理事務所所管の国有林は愛知県内で約11,000haあるが、このうち6,000~7,000haが設楽町にある段戸国有林であり、伐採後の新生林分の約400haくらいにシカ対策の防護柵を設置している。被害は概ねシカによるものだと考えている。イノシシが柵を損傷させ、そこからシカなどが侵入し、食害が発生している。この場合、柵内で目視により確認できるので、シカとカモシカのいずれの被害かおおよそ判別することができる。そのほか、センサーカメラも設置している。国有林では主に新生林分で人の背丈未満の樹木が被害を受けており、カモ

シカの被害というよりもシカによる被害が主ではないかと考えている。

民有林では被害の加害獣をどのように判別しているか伺いたい。

(事務局) 確認し、回答させていただく。

(構成員) カモシカについて、直近では尾張旭市にある森林公園で錯誤捕獲があった旨報告があった。猟友会としては、農業被害がシカによるのかカモシカによるのか判別して対応しているわけではないが、感覚的にはカモシカの分布が拡大しているのではないかという話は聞いている。

(3) その他

- ・今後のスケジュールについて確認